

事業所における自己評価結果(公表)

公表:R4年3月3日

事業所名 高槻市立めばえ教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		適切なスペースが確保できるよう、遊具の配置や設定を工夫している。	
	2	職員の配置数は適切である	○		様々なニーズに対応できるように多職種で対応している。	お子さまや保護者の方に合わせたより丁寧な関わりが行えるよう、職員体制を検討する。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		活動によって部屋を移動する等、わかりやすいように環境設定を行っている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		毎日、玩具や遊具、ドアノブ等の消毒を行っている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		職員会議や毎朝の打ち合わせの中で確認する機会を設けている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		評価表の他にも、年度末にアンケートを実施し、ご意見いただいた点について検討し、改善につなげている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している		○		今後、ホームページ等を利用し、改善点について公開できるよう検討を行う。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		外部評価は行っていないため、今後、検討を行う。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		定期的に職員研修を実施している。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		個別にききとりを行い、ニーズや家庭等での様子を伺い、計画を作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		発達検査や行動調査票を使用して、アセスメントを行っている。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		それぞれの項目についてききとりを行い、ニーズ等を把握し支援につながるよう努めている。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		支援計画を把握し、計画に沿った支援を提供できるように努めている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		定期的に会議を行い、各専門職からの視点を取り入れて立案している。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		粗大運動、微細運動等、様々な活動を取り入れ、発達を促す経験を重ねられるよう検討を行っている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		子どもの様子を把握し、職員間で共有して計画を作成を行っている。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎朝、打ち合わせを行い確認をしている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		療育後に振り返りを行い、対応策を検討し、共有している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		療育後に振り返りを行い、適切な支援が提供できるように努めている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的に会議を行い、各専門職の視点を出し合い、子どもの様子を把握している。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係機関と連携した支援を行っている	○		保護者の要望や必要に応じて行っている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○		現在、医療的ケアが必要な子どもはいないが、必要がある場合は連携を行う。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○		現在、医療的ケアが必要な子どもはいないが、必要がある場合は連携を行う。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保護者の要望に応じて、電話・書面・面談等の連携を行っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○		2歳児を対象としているため、行っていない。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		必要に応じて、連携を行っている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○		交流の機会はないが、園庭開放等の情報提供を行っている。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		機会があれば積極的に参加したい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		療育時や個別面談等を通して、共通理解を持てるように支援を行っている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		情報提供だけでなく、保護者の方が話しやすい雰囲気の中で行えるように心がけている。	個別面談や保護者グループ懇談の中でもプログラムの視点をういた支援を行い、保護者の方に理解を深めていただけるような支援を提供できるように努めていきたい。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		入室前の契約会やオリエンテーション時に説明を行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		支援計画作成後に必ず内容について説明を行い、同意を得られるよう努めている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		定期的に個別面談を行い、相談を行っている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		父母の会はないが、療育時に保護者グループ懇談の時間を設け、情報交換や交流ができる場を提供している。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		療育時以外にも、必要に応じて個別面談や電話相談を行っている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月お便りを発行し、療育内容や行事予定等について発信している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		管理や取扱いについては十分注意している。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		必要に応じて個別に対応している。	
非常時等の対応	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		地域住民を招待するような機会は設けていない。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		定期的に訓練を実施している。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		定期的に訓練を実施している。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	○		入室時に面接票への記入と看護師によるききとりを行っている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		医師の指示書に基づく対応はしていないが、入室時に面接票への記入と看護師によるききとりを行い、把握している。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		毎日の振り返りで作成し職員で共有して、改善に向けて対応を検討している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		定期的に研修を実施している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		○		2歳児を対象としており、身体拘束は行わないため計画に記載していない。やむおえない場合は、個別対応や環境設定を工夫するなど、身体拘束以外の方法で対応を検討している。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。